

# 市民文芸

## 歌壇

岩崎 聰之介 選

こつそりと春の挨拶ふきのとう手をさしのべ  
て握手しようか 鎌田ねい子  
何よりも美味と思えり白き飯とネギ入り納豆  
わが家の夕餼 佐藤 啓子  
アドバイスの受けとり方を誤りていさかいの  
後文書き送る 斎藤 典子  
正月の二日にはじまり朝顔は咲き継ぎてうれ  
し三十一輪目 山田 濱  
亡き夫の手塩にかけし松盆栽手入れ届かず数  
の減りゆく 阿部はぎの  
亡き親の形見とのこしし箱のなか通い帳あり  
往時を偲ぶ 遠藤 行夫  
大丈夫と弾める声に受話器から手術日伝えし  
君今はなき 鈴木 茂子  
病室の時の過ぎ行く証なるか点滴の液減るを  
見ており 平間 幸恵  
早春の土手を歩めば木木たちも蕾いだきてど  
こかやさしも 寺崎 悦子  
鉢植えの薔薇の挿し木に芽がいであ春がきた  
ねと日毎にながむ 石田みどり

【評】一首目、卵形の先端を開きかけたころか。早春の出会いを語り掛けるように表現。  
二首目、材の素材な取り合わせと、その旨さを歌う。何につけ、飾らぬ良さへの思いがあるようだ。  
三首目、時にはこんなことも起ころう。下の句にさわやかな反省が込められる。

## 俳壇

遠藤 秋尾 選

たわたわと光ははけて薄氷 岩松 隆志  
雪童の足軽やかに二月来し 岩澤 伍峯  
畦を焼く神々の山前にして 跡部祐三郎  
フリージア甘き香りにさそはれて 遠藤クニ子

いよいよ4月1日から平成22年度が始まりました。幼稚園から社会人まで、多くのピカピカの一年生が誕生しました。その方々に心からお祝い申し上げます。これからあなた方には、さまざまな出来事が待ち受けていると思います。しかし、それに憶することなく夢や希望に向かつて前進し、大いに経験を積み上げてほしいと願います。年齢を重ねると、新しい変化には多くの不安が募ります。それは、立場の変化とともに「責任」が増すのでだと思います。しかしもう一方には、多くの経験を経てはぐくんできた理想があるはず。理想と現実の間で苦悩しながら道を切り開いていくことが、「有意義で楽しい」と感じるか、「苦痛」と感じるか、その受け止め方によって進む方向が変わっていくのではないのでしょうか。

## 風間市長の風のそよぎ

### 「新年度」

しかし、その不安を「安心」に変えてくれたのが、生活に必要な規則や道徳性を優しく教えてくれた「先生」でした。そして親や家族にも支えられました。不安と闘っているのは本人だけではなく、親もそうなのです。泣いているわが子を見れば、かばいたくなるのは親の人情でも、そこをぐっとこらえ、笑顔で送り出すことが、わが子の成長をサポートすることになるのではないのでしょうか。親にとっ

て、子どもはいくつになっても子ども。年を重ねるたびに新たな喜怒哀楽が生まれ、ともに成長できます。そして、親という字が、「木の上に立つて見守る」とよく説明されるように、親には「見守る」忍耐が特に必要となるでしょう。便利なものが多く手に入る世の中だからこそ、子どもにとっても親にとっても、「見守る」ことの重要性を強く感じます。ただ、「見守る」という意味を取り違えないようにしてもらいたいと思います。

「平成22年度はどんな年になることやら」ではなく、将来、飛躍的に発展進歩した年だったと振り返ることができるように、さまざまなことにチャレンジし、みんなが楽しくまい進し成長していきましょう。そこには誰かが必ず見守ってくれています。

【3月号の答え】  
「江戸の敵を長崎で討つ」の意味は、全く意外な所で、また筋違いなこと、かつて受けた恨みの仕返しをすることの例えです。

【評】一句目、小川の岸の薄氷であろうか。光りつつ岸辺を離れてゆく薄氷の句。  
七句目、梅の開花を待つ作者の喜びが、下の「昨日今日」に表現されている。  
十句目、寒牡丹の美しさと生命力に、畏敬を込めた「照らしませ」の下の五が成功。  
4月4日(日)より市民俳句初心者講座を開催します。ふれあいプラザ(本町)で毎月第1日曜日、13時からとなります。俳句に興味のある方は年齢を問わず、気軽にお越しください。

【評】一句目、火種があるから人は生きられる。たとえ小さな火種でも、持ち続けることが生きる力の支えになるのだろう。  
二句目、数々の感動を与えてくれた冬季五輪。名場面、名勝負は心に深く刻まれた。茶の間で見られる幸に感謝。  
三句目、桜の時期には少し早い、一足早く咲いたのは、合格の桜だろう。家族みんなの喜びもひとしお。新しいスタートに乾杯。

一湾の初東雲に雲もなし  
嘴をすっぽり隠し浮寝鳥 服部 忠孝  
白梅のつぼみひらきぬ昨日今日 福原 峯子  
恋猫の庭ゆうゆうと通りゆく 高子うこん  
父の星母の星あり冬銀河 跡部 祐子  
寒牡丹凛と明日を照らしませ 寺崎 悦子

## 柳壇

四電 英夫 選

終焉の日まで火種は消さず置く 草野 清  
生きていて良かった見れるバンクーバー 高子うこん  
吾が家にもひと足早々くら咲き 水戸 光穂  
他の痛み知り得てこそ春の音 寺崎 悦子  
また来いよ可愛い娘の里帰り 百 一山  
頬被り思い懐かし山の道 大庭 良子  
初仕事元旦からの雪かきよ 斎藤 典子  
結束もしめつけ過ぎて紐もきれ 遠藤 行夫  
ハイハイと受話器とる前返事する 佐藤 啓子  
献金に秘書の煙幕無事通過 阿部はぎの



## 国際コーナー International Corner

### 「人生のチェックリスト」

やるべきことは死ぬ前にたくさんあります。富士山に登ること、ラーメン巡り、屋久島、エジプトのピラミッド、スカイダイビングなど、みんなそれぞれ山ほどあるでしょう。あなたのやりたいことは何でしょうか。不況でポジティブに考えられない、お金に余裕がないあなたにぜひ読んでほしいです。

僕の両親の生活スタイルを例に挙げます。シドニーに住むことは決して安くありません。ローンや税金、交通費などの金額は、世界トップ5に入るほど高いまちです。今の日本と同じく、両親が働かないとお金がたまりません。それでも“the best things in life are free” (人生で最高のものはタダ)。僕の両親は、まさにこのフレーズを中心に生活しています。週末は近くの海辺を散歩したり(夏なら泳いだり)、お弁当を持って公園でピクニック気分を味わったり、家族とハウスパーティーをしたりするなど、余計なお金を使わずに充実した時間を楽しんでいます。シドニーは海も公園も多く、毎週のように新しい場所が発見できて退屈しません。ショッピングモールやレストラン、映画館などと比べてお金はいかからないし、きれいな空気を吸いながら運動もできる健康的なライフスタイルです。

ただ、両親にとって何より楽しみなことは海外巡り。いろいろな国のアトラクションを生で見たい。だからこそ、お金のかからない趣味を選び、貯金したお金で旅行をするのです。考えてみれば、3年ごとに違う国へ行けば、30年で10カ国近く見られます。定年退職してからでも、80歳まで7カ国ほど行けるはず。また、いろいろ経験したいと思っている方は、やりたいことのチェックリストを書いて、年に1つだけでもリストから何かクリアしてみたかどうか。年休をあまり取らない日本でも、これは取り過ぎではないでしょう。

ちなみにこの間、自分のチェックリストから、1件クリアしましたよ！ やっと樹氷を見に行きました！ 樹氷の美しさを間近で見ることができて、何かすごい達成感を味わったし、元気付けられました。せっかくみんなにはそれぞれの「夢」があるから、ドンドン「可能だ」と思い、どんなに小さくてもいいから「実現」していきましょう！ 自分のリストの次は、鳴子温泉です！

## まちの話題 ~あの日、あの時~ Diary

### 努力は無駄にならない！ 伝統を守ってください！ 深谷小学校で「かさまつ太鼓引き継ぎ式」

2月20日、深谷小学校(菅原守校長)の体育館で、「太鼓引き継ぎ式」が行われました。

深谷小学校では、地域の皆さんとともに全校児童で「かさまつ太鼓」の継承に取り組んでおり、運動会や学習発表会などで演奏を披露しています。

6年生13人を代表して片平ひなこさんが「6年間で太鼓の演奏がとて好きになりました。努力は無駄ではありません。伝統を守り、素晴らしい太鼓の演奏をつくり上げてください」と、後輩たちにかさまつ太鼓の伝統を託しました。

続いて行われた6年生の演奏では、息のあった力強い演奏を披露した後、太鼓のばちを1年生から5年生に引き継ぎました。在校生を代表して5年生の亀井凌太くん

が、「感謝の気持ちを込めて一生懸命演奏します」とあいさつ。在校生全員で、お世話になった6年生に心の込められた太鼓の演奏を贈りました。



▲6年生の迫力ある太鼓の演奏